

答 辞

令和7年3月のこの佳き日に、私達256名は卒業式迎えることができました。

本日は、私達普通科卒業生のためにこのような盛大で心温まる式を挙げていただき、誠に感謝申し上げます。

思い起こせば入学当初は、感染症の脅威が未だ衰えず、生活が普通とは言えない日々であったことを鮮明に覚えています。マスクを常に着用し、お互いの素顔を見るのが少なく過ごす一方で、5月には校外レクリエーション、6月には陸上競技会などクラス内の交流の機会を重ねることで次第に日常の雰囲気も柔らかくなっていきました。

9月には残暑の中、また感染症の影響も残る中であつたため、制限がある文化祭が開催されました。特に飲食についての制限が多くありましたが、各クラスが工夫を重ねながら、また一丸となって制作準備に取り組みました。様々な学校行事を経るにつれて、仲間との絆が深まり、瞬く間に1年がすぎたように感じます。

2年生へ進級し、新しいクラスとその仲間への期待に満ちた中、新しい1年が始まりました。感染症への規制も徐々に緩和され、クラスの穏やかな雰囲気心地良さを感じ始めてきた5月。校外レクリエーションとして横浜を訪れました。慣れない道と初々しいグループメンバーと歩く横浜は全てが新鮮で交流が深まる良い機会であつたのを覚えています。

陸上競技会や文化祭でさらに仲間との絆が深まって行く日々を経て、11月には待望の修学旅行を迎えました。行き先は京都・大阪で、入念に事前学習をしながら胸を躍らせていました。また、修学旅行へ向けて、先生方も数多くの準備をしてくださりました。先生方にご協力頂きまして、私達はかけがえのない一生の思い出をたくさんの仲間と共に創ることができました。私達のためにこれまで計画をしてくださった先生方には感謝の気持ちで満ちています。本当にありがとうございました。

そして、そのような色濃い1年もあつという間に過ぎ去り、将来について自分で選択する大切な年になりました。また、最高学年として多くの場面で仲間の集大成が見られました。日々の練習にひたすらひたむきに取り組み、成果を発揮して素晴らしい結果を収める部活動が多くありました。様々な場所で活躍する仲間たちの姿を見て、誇りに思うと同時に、一緒に頑張ろうと思うこともできました。そして、引退した後は、各々の進路に向かって惜しまず努力を積む仲間が沢山いました。将来を見据え真摯に、そして高い志を持って励む仲間と互いに研鑽を積み、進路の準備をした期間も非常に貴重であつたと感じます。

また卒業の時期が近づくとつれ、この3年間を振り返り懐かしく思うことも増えてきたように思います。初々しい1年生から、今、仲間と過ごした日々の思い出や積み重ねてきた努力に想いをめぐらすと、卒業がとても心惜しく感じます。私は特に文化祭の記憶が残っています。1年生では感染症による規制、2年生では豪雨など通常の文化祭とはかけ離れたものでした。しかし、1月近くから準備を始め、迎えた当日に皆様の非常に楽しそうな姿

に私も嬉しい気持ちになったことを鮮明に覚えています。3年間の中では、悔しかったこと、辛かったことも数え切れないほどありました。しかしながらそれらを乗り越えることができたのは、大切な仲間たちであり、厳しくも温かく見守り、時には支えてくださった先生方のおかげです。感染症の影響もあり、思い描いていた高校生活とは異なることもありましたが、その全てが私たち唯一無二の特別な思い出です。

こうして今壇上に立つと、改めて卒業への実感が湧いてきました。3年間で充実し、華やかな高校生活を送ることができ、本日卒業することができるのは、私たちに関わってくださった皆様方のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。今、社会は複雑化しており、今までの考え方とは全く異なる時代になりつつあります。その中私たちは「明朗・真摯・友愛」の校風のもと学んだことを活かし、それぞれの道に向かって行きます。

最後になりましたが、今までお世話になりました佐久間校長先生をはじめとする多くの先生方や、学校関係者の方々に感謝申し上げます。そして、私たちをいつも1番近くで支えてくださった保護者の皆様に心から感謝申し上げます。今まで育ててくれたお父さん、お母さん本当にありがとう！

これからの母校のさらなる発展を心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

令和7年3月1日普通科卒業生代表